キーマンに―直撃― Vol. 28

地元の魅力を結婚式を通じて発信

その土地ならではの食材を用いた料理提案

地域活性化のノウハウを今後は他県にも展開

フェアリー・テイル
代表取締役
藤田徳子氏

香川県の魅力を伝えたい。この想いのもとに結婚式のプロデュースを行うのが、フェアリー・テイル（香川県高松市）の代表取締役・藤田徳子氏だ。地元に点在する観光資源を活かして、県外からも結婚式を誘致するべく日々奮闘している。地域にこだわるその理由とは。話を聞いた。

――香川の魅力を活かす「ふるさとウエディング」に注力しているそうですが。

「大学を卒業後、広告代理店で勤務しており、1998年に自身の結婚を機に創業しました。当時まだ珍しかったプロデュース企業として、他と差別化を図るために何をしていくべきかと考えた時、香川にしかない地域資源がたくさんあることに気付いたのです。だったらそれを結婚式に活かせないか。その想いから地元の魅力を式に盛り込む『ふるさとウエディング』のプロデュースに注力し始めました。ホテルや式場とのバッティングも避けられ共存できますし、香川県外からの誘致も可能。県のいいところを列席者にも発信できるため、地元の活性化にも繋がるのではと考えたのがきっかけです。」

――香川ならではとは、実際にどのようなものがあるのでしょうか。

「例えば高松市に位置する栗林（りつりん）公園。ここはミシュラングリーンガイドでも三つ星を獲得するなど、世界が認める場所です。江戸時代に造られ、現存する大名庭園では日本最大級を誇っているのも特徴。2012年には、公園内で初となる結婚式を当社で受注しました。新郎新婦は東京在住でしたが、新郎の家族から出身地である香川で結婚式を挙げてほしいとの要望があったのです。」

――公園内での結婚式開催は、スムーズにいったのでしょうか。

「栗林公園を運営する香川県は、前例がないということと、文化庁が指定する特別名勝にも指定されており、そもそもは結婚式を目的としてないことから躊躇していたのです。香川にゆかりのない新婦が『栗林公園なら、東京ではなくても結婚式を挙げたい』と言ったことからこちらも奮闘。文化庁も現在は、文化財は眺めるだけでなくどう活用していくか。今までの財産をどう今流に使用していくかという『ユニークベニュー』の考えを持つようになり、高松市もそうした利用により地域も盛り上がるという認識になっていきました。結果、2012年に初となる公園内での結婚式に至ったわけです。」

――リクルートマーケティングパートナーズ主催のGood Wedding Awardにもこの結婚式で応募し、入賞しました。

「入賞を狙っていたつもりはなかったのですが、これによりやってきたことが社会的に評価されたと感じました。初めは東京での式を希望していた新婦も、観光客からお祝いの声をかけてもらい、満面の笑み。地元の人達も、『東京からお嫁さんがきた！』と喜んでいました。その土地にしかない観光財源は、結婚式の舞台にするなどして活かす道は多くあるはずです。地域の活性化にもなりますし、この取り組みは今後も注力していきます。」

――現在は、香川県とも一体になり、事業を進めていると聞きました。このノウハウを更に広めていくそうですね。

「昨年、栗林公園内に位置する商工奨励館のカフェ運営に関するコンペティションがあり、当社が選ばれました。行政がハード部分の建物を管理しているのですが、ブライダルで培った企画力を活かして、ソフト部分の運営を担っていくというものです。これに合わせて、ホテルで料理長の経験も持つシェフを新たに採用。香川エリアは食材も豊富です。例えば四国のかんきつ類を始め、小豆島でオリーブの搾りかすを食べて育った『オリーブ牛』や、瀬戸内海の魚介など。野菜は生産者から直接仕入れる香川県産のものを使用。食でも誘致し、観光客を魅了する方針です。自社でやってきたことを他県にも活かしてほしいとの想いから、今後は婚礼企業などを始めとしたBtoB向けに、このノウハウを広めていく予定です。」

――行政との協業で生まれるメリットとは。

「婚礼企業が自治体と一緒に動くことで、消費者にとってはブライダル業界がクリーンに見えてくるはず。行政のおすみつきなどがあれば、業界の社会的地位の向上にもなるでしょう。香川の魅力を発信したいとの思いからふるさとウエディングに取り組んでいますが、他県にはその県にしかない魅力もたくさんあります。観光財源をぜひ結婚式に取り入れ、ふるさとの魅力を発信してもらえれば。宿泊や飲食店など、付随する産業だけでなく街そのものの活性に繋がります。今後はさらに、地元の魅力を発信する結婚式が増えていくことを願います。」